

こころのふれあいフェスティバル

このイベントは、NPO法人千葉県精神保健福祉協議会が主催となり、開催されています。多くの千葉県内の精神科病院やデイケアなど関係施設が集まり、精神保健福祉に関する理解促進と精神障害者の社会参加を図ることを目的としています。

当院でも、OT活動ブリッジの活動の一環として、演芸や作品展示等見ながら、地域交流の場として毎年参加しています。また、OTフラワーダンス部の貴重な演芸披露の場でもあります。

実際に職員も一緒に踊りを練習し、メンバーと共に舞台上に上がるという貴重な体験をさせてもらっています。

今回の参加を最後に、OTフラワーダンス部はプログラムが終了することとなりました。最後の発表の場と言うことでメンバーも気合が入っており、いつも以上に真剣に練習に取り組んできました。舞台では、全員しっかりと振り付けを揃えて、ポーズもかっこよく決め、迫力のある踊りを披露することが出来ました。

イベントの中には演芸のほかにも作品展示や屋外でのバザーがあり、各施設で利用者様が作った作品が並べられ、販売されています。50ほどの施設がブースを開いており、こちらにもぎわっていました。今年は天候に恵まれ青空の下屋外のバザーを回ることが出来たので、患者様もよりイベントを楽しむことが出来ました。

今後も地域との交流等を目的にイベントへの参加を続けて行きたいと考えています。



ういんぐ =WING=

千葉病院広報紙 2017. 春号 (第56号) 発行者 医療法人同和会 千葉病院

あおぞら祭りのご案内



～ 最善の行動と信頼 ～

医療法人 同和会 千葉病院

【病院概要】

- 診療科
精神科・神経科・歯科（要予約）
- 院長
小松 尚也
- 外来診療時間
平日9:00～12:30（月曜日のみ9:30～12:30）
土曜日9:00～12:30（午後は予約制）
- 休診日
木曜日・日曜日・祝祭日・6月1日（創立記念日）
- 所在地
〒274-0822 千葉県船橋市飯山満町2-508
TEL：047-466-2176 FAX：047-466-7503
ホームページ：//www.chiba-hpon.arena.ne.jp
- 千葉県認知症疾患医療センター
TEL：047-496-2255 FAX：047-496-2256



千葉病院 患者様の権利

- ①個人として、人格およびプライバシーが尊重されます。
- ②安全な環境で、可能な限りの良質な医療が提供されます。
- ③職員のいかなる行為に対しても説明を求め苦情を申し立てることができます。
- ④精神保健福祉法に則った医療および処遇が保障されます。
- ⑤職員から思想・信条・宗教および個人的関係は強制されません。
- ⑥個人情報保護されます。

発行：医療法人同和会 千葉病院
発行日：平成29年6月1日
住所：千葉県船橋市飯山満町2-508
TEL 047-466-2176 Fax 047-466-7503
URL://www.chiba-hp.on.arena.ne.jp/

編集後記
毎年恒例の「あおぞら祭り」。梅雨の時期にもかかわらず、晴天に恵まれることが多く、多くの方にご来場いただいております。今年は当方の都合により午後からになりましたが、催し物や出店など、いろいろとご用意しておりますので、お繰り合わせのうえご参加いただければ幸いです。

日時：6月10日（土）午後1時45分～

会場：同和会千葉病院 お祭り広場

※雨天の場合、会場が屋内に変更となります

千葉病院恒例のイベント、あおぞら祭りを今年も開催します。初夏を感じるこの季節に青空のもとで、焼きそばをはじめとする出店や、フラダンスなどの催し物を計画しておりますので、是非、ご参加下さい。

近隣の皆様には、音楽などでご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご了承ください



認知症疾患医療センター

認知症センター担当

平成26年10月より、同和会千葉病院に、認知症疾患医療センターが併設されました。

「認知症疾患医療センター」とは、地域における認知症の専門医療機関として、早期発見、診断・治療、またかかりつけ医や介護施設との連携の中心となる施設のことで、

千葉県内では医療圏域ごとに開設されており、千葉病院は、心一会八千代病院(八千代市)とともに、東葛南部地区(船橋市・八千代市・市川市など)の認知症疾患医療センターとして開設・運営しております

連載第4回目は、認知症疾患センターの地域連携、啓蒙活動を中心に報告いたします。

認知症疾患医療センターとしての当院の役割には、大きくわけて4つあります。

- ①専門医療相談: 専門の相談員(精神保健福祉士)が、患者さんやご家族の認知症に関するお悩みについて電話や面接などでご相談を受けます。その結果、当院の受診あるいは適切な施設をご紹介させていただくこともあります【2017年春号でご報告】
- ②鑑別診断(初期診断): 認知症が疑われる患者さんに対して、医師による問診や、MRIなど各種検査を行って診断を行います。また、BPSDと呼ばれる周辺症状についても診察し、適切な治療を行います【2016年冬号でご報告】
- ③地域連携: 八千代病院認知症疾患医療センター、および圏域を管轄する行政機関(地域包括支援センター、在宅支援センターなど)と、「認知症疾患連携協議会」を設置し、相談・支援の連携体制について検討を進めます。また、地域の医療機関(かかりつけ医)との会議や研修会を行い、連携を進めていきます【今回ご報告】
- ④啓蒙活動: 上記のかかりつけ医を対象とした研修会のほか、福祉関係者や患者家族、地域住民などを対象とした講演会や研修会を開催し、認知症に対する知識や理解を深める啓蒙活動を行います【今回ご報告】

地域連携については、年2回「東葛南部認知症疾患連携協議会」を行います。当院、八千代病院、および圏域6市の市役所担当者、地域包括支援センター担当者が集まり、支援体制の検討を進めています。また、船橋市内の医療機関(かかりつけ医)とも、ネットワークを構築して連携を密にしています。

昨年9月に当院で開催された認知症連携協議会



啓蒙活動については、小松尚也センター長を中心に、さまざまな職種・媒体を利用して、認知症への理解・啓蒙を深めております。

昨年度(平成28年度)は、かかりつけ医、医療福祉専門職を対象にしたものだけで、9回開催し、延べ参加者330名を数えました。

このほかにも、地域住民や企業を対象とした啓蒙活動にも力を入れています。

ケアマネジャーを対象とした講演会



注意すべき精神科患者さんの身体疾患兆候 その3

千葉病院医師 小暮 正信

精神科患者さんの中には、精神症状のために不調を訴えることが苦手あるいはできない方、または普段から心気症状が中心で多訴的な方等があり、そのような場合はその背景に存在するかもしれない身体疾患を見逃してしまう危険性が高まります。

そのため、比較的出現頻度の高い身体疾患をここで再確認しておきましょう。これらの兆候を知っておくことは、医師や看護師のみならず、作業療法士(OT)や精神保健福祉士(PSW)、病院事務職、そして患者さんのご家族など、患者さんと接する機会のある全ての方において意味のあることと思われれます。

⑥錐体外路症状

<抗精神病薬による黒質線条体ドーパミン受容体遮断>

【①ジストニア(抗精神病薬開始・増量後数時間～数日): 口、舌、顎、顔面、頸部、体幹、四肢の強直や捻転。眼球上転や舌の突出、痙性斜頸、頸部後屈など。若年男性に多い】

【②アカシジア(抗精神病薬開始・増量後数日～数週間): 下肢の不快感、むずむず感、それに伴う不安、焦燥、不眠など。中年女性に多い。※精神症状悪化との鑑別が重要】

【③薬剤性パーキンソン症候群(抗精神病薬開始・増量後数日～数週間): 振戦、筋固縮、嚥下障害、無動、仮面様顔貌、前屈姿勢、小刻み歩行など】

精神的苦痛を生じ、服薬アドヒアランス(患者が積極的に治療に参加すること)の低下や自殺等に注意する。

⑦肺動脈血栓塞栓症

<血流うっ滞、血管内皮障害、血液凝固異常などで深部静脈血栓 → 遊離した血栓が肺動脈を塞栓 → 酸素化不良、右心不全>

【急性に発症する胸痛や呼吸困難、頻呼吸、酸素飽和度低下、失神、血圧低下など!!】

心電図: 右軸偏位、不完全右脚ブロック、V1-3で陰性T波

胸部レントゲン: 肺門部肺動脈拡張、末梢肺血管陰影消失

肥満、長期臥床、身体拘束、脱水、抗精神病薬服用がリスクである。

特にクロルプロマジンなどの低力価の薬剤で起こりやすいとの報告がある。

予防として、適度な水分補給、早期の離床、運動、身体拘束時は弾性ストッキングなどが用いられる。

デイケア 就労準備プログラム

当院のデイケアでは、就労を目標とした人を対象に就労準備プログラムを催しています。

このプログラムの一環で、5月16日に、ハローワーク船橋(船橋公共職業安定所)に外出しました。



ハローワークでは利用仕方の説明を受け、実際にパソコンを使って求人を検索しました。

参加したデイケア利用者からは「モチベーションが上がった」など感想を頂きました。